新山協ニュース

発行者　鈴木敏雄　発行所　新潟県山岳協会

〒940　長岡市学校町1－12－23　室賀輝男方　TEL 0258－32－0428

花の旅、玉山に登る

新潟鉄工山の会OB　平田静一郎

台湾の山には内政部の登山許可がいる。4人以上の団体で6ケ月前に、中華民国山岳協会経由の申請が条件である。たった2人のそれも1ケ月前の申請というルール違反に、半ば締めていたが、協会側の尽力で幸運にも許可を得ることができた。雨期と連休の混雑前4月20日台北へ。同夜のミーテングには詹常務理事・林国際組長・蔡氏他2氏が出席され、紹介のあと林氏から「当会からのプレゼントです」と山岳協会の小旗とバッジを渡される。旗には4月20日平田夫妻玉山登攀記念と書かれている。「もう登頂成功ですか」と大笑い。12年前の越後支部の玉山登山に話が及ぶ。当時ガイドを勤めた蔡氏「天気が悪いうえ山荘の親父にだまされて、アイゼンを持たなかったため残念でした」林氏も一行のことをよく覚えていられ、藤島氏の様子を聞かれる。明日から謝巨満氏が同行することになった。

21日8時半の阿里山行き高速バスで台北をでる。越後支部当時は汽車を利用したそうだが、今は阿里山まで6時間足らず。パパイヤ・カポックが窓をかすめる。乾期のため中央山脈から流れる濁水溪も奇麗な水がちょろちょろ。嘉義で高速を離れ北上。楽隊付きの珍らしい葬列に会う。マンゴー・サボンの熱帯樹からシイ・カシ・竹のタイワンスギ・茶畑と高度と共に植生も変る。阿里山は台湾有数の観光地。桧の中にホテル・売店・博物館・八重桜とリンゴが満開。ワラビも盛り、谷間はワサビ畑。遊歩道を一巡してチャーターしたマイクロバスで自忠へ。自忠（張自忠将軍の名をとった）には警察のチェックポイント。許可証にスタンプ。民宿もここにある。ストーブがあたたかい民宿で今日の相宿は、謝氏の仲間台北市論山区の男女9人と、基隆の4人。日本酒・紹興酒・ウーロン茶のパーテー、みんな中年以上日本語が通じる。30代の2人が、日本語ができなくて申し訳ないと、英語で詫びるのに恐縮。申し訳ないのはこちらだ。

22日玉山の上を薄い笠雲が東に流れていく。雲も多いが青空も見える。6時車で塔塔加鞍部（3600m）へ向う。シロツメクサが真白。かつての森林軌道も今は舗装道路となり、路上に落石がいっぱい。道路工事で峠の3Km手前でストップ、運転手に明日の迎えを約して歩く。大きなウワミズザクラ・丈の高いシャクナゲが花をつけ、初めてみるムニンヤツデが珍らしい。石畳の鞍部は林道と山道の十字路。7時半論山一行の揃うのを待って出発。山道といっても旧街道という感じ、にぎやかに12人が列をなしていく。ピンクのヤマツツジ・アセビが重そうに花を垂れ、ヤナギ・キョウが咲く。クロマツにサルオガセ。標高3000m温帯林と寒帯林の境界と書かれた案内板があるが景観は変らず。道の狭い所は桟道になっている。15m以下の短いものだが全行程で85ケ所ある。モンロー氏が墜死したモンロー断崖、誰も気付かず通過。山火事跡の箭竹（カンザンチク？）の藪の中に、真白に立枯れた油杉の林。黄花のミヤマリンドウがある、台湾特産種か。10名程の男女が降りてくる。日本語が珍らしいのかすれ違うと振返り振返り行く。暑さに強いと思った論山一行も汗だらけ。油杉・冷杉（シラビソに似る）の巨木の林に入る。表土の少ない急な岩山によく育つものだ。貯水の悪い針葉樹のため水場はない。路傍の杭に、新高山昭和15年の文字。「47年もよくもつものですね」「桧ですから」沢が近付き尾根を曲ると林の上に排雲山荘。人の気配を察し子犬が駆け降りてくる。12時20分。先客が10人くらい。背の高い元軍人の管理人「孫のような奥さんが東埔にいるん

ですよ」謝さん。論山一行に誘われて午後西峰3528mへ。竹藪を分けて稜線の林にでると、元日本が架設した電話線が残り、うっかりすると首をひっかける。西峰頂上には日本時代の社があり、2体の女神像それに礼拝する台湾の人に、日本人に似た心情をみる。謝さん持参の圧力釜で素晴らしい飯。ウーロン茶の飲み過ぎか吐気がする。この高さで山酔は考えられない。女房も腹の変調を訴える。蛍光灯はあるが発電機は壊れたまま。管理人がローソクを配ってあるく。夜霧がはれて満天の星。南峰の上にサソリが赤く乙女座が青い。

4時10分論山に続いて出発。風のない静かな林の中を灯りがちらちら。おくれる論山を後に無言の登高。暗闇の中に残雪が浮ぶ。「ここが富士山の高さですよ」というあたりが森林限界。冷杉に代ってハイネズ（ニイタカビャクシン）がハイマツ状に這う。広くなった頭上の七夕星が光を失うとライトを消す。ネズの下にカワカミウスユキソウの白い芽。前年のミヤマシャジン・アザミ・ヤマハハコが倒れたまま。ガレから岩場の急登に女房の動きがにぶる。冬期用の鉄柱が並ぶ。頂上の銅像が手の届く近さ。転落防止の金網をくぐると北峰への別れ道。初めて踏む小さな残雪、冷たい西風が吹上げる。御来光に南峰が赤く染まり、その上に細い月。頂上6時3分。3997mの上に子右任の胸像が4000mを抜く。「来ないで」女房岩影にかくれる。それで調子よくなれば上乗だ。よく晴れているが、逆光で中央山脈はかすみ、秀姑巒山もうすい。まだ朝焼の南峰、富士山に似た雲峰と3500m以上の山々が南に並ぶ。快晴なら台湾海峡が見えるという西は青一色。頂上の北側に雨をしのぐ程度の破れ小屋。小屋の脇から急に落込む茖濃溪の谷にはかなりの残雪がある。堅い蕾のシャクナゲ・綿毛をつけたミネヤナギ。さて降るかと時計に目がいくころ、論山区その他の登山者で忽ち頂上は人でいっぱい。

花には早かったが、人の交流が楽しい山だった。

地元の山紹介

俎倉山スキー登山

下越山岳会　五十嵐　篤　雄

昭和の初期、森谷周野、佐久間惇一の両氏が焼峰山に登り、頂上から真正面に見える俎倉山を眺めているうちに、琴沢上流の台地がスキーに最適であることを知った。

充分偵察したうえで俎倉山の冬期スキー登山も2人でおこない、琴沢の台地を滑り、鳥越（峠）から釜が沢に移る大斜面を滑降したのが俎倉山スキーツアーの最初だったと聞いている。

つまり森谷さん佐久間さんがコースの開拓者ということになる。

戦後間もない昭和23年3月、佐久間さんがリーダーで、土田純司、五十嵐篤雄が俎倉山スキーツアーをやったのが戦後初めてであった。

以来、殆んど毎年俎倉山のスキーを続けているが、何時行っても誰れにも会ったことがない、という下越の隠れた穴場である。

標高は856mしかないが、飯豊連峰大日岳から西に延びる尾根の末端にあたり、蒜場山から飯豊連峰の展望は雄大で、よく晴れた日には、粟ケ岳、守門、浅草岳、その奥に越後三山まで望み、平野部の西には、日本海に横たわる佐渡が島が指呼の間に望まれる恵まれた地勢をもっている。是非皆さんにお奨めしたい山だ。

2月3月に登れる山

子持山（1296・7m）

長岡ハイキングクラブ　茨木　弘

沼田ICを降りて吾妻郡高山村中山峠に向かう。17号線を横切り利根川を越えて145号線に乗る。途中沼田側から子持山に登る小峠コースの案内板が出ている。2時間30分位で登れると思うが、関東の緩やかな裾野と植林の関係で、今は相当奥まで車で行けるものと思う。この小峠コースは高山村中山峠からのコースと、標高950m付近で合致する。

中山峠の左側、小高い場所に国民宿舎わらび荘がある。この建物の入口を過ぎると直ぐ左側に入る道がある。左折して後方に戻る道（わらび荘に行く）と、直角に交わり山へ向かって登っている道がある。これがNTTの電波塔に向かう道である。この入口を見逃すと塩原太助の碑を通って渋川への下り道になる。

1Km位舗装道路が続く。もう1Km進むとゲートがある。

途中二股に分かれる道があり、右側を登る。林道は積雪が有るので、四輪駆動かチェーンを付けた車でないと登れない。入口から4㎞入った所で前述した、沼田小峠コースの道と交差する。電波塔まで後1㎞。今回はこの小峠コースから山頂を目指すことにしよう。

尾根コースで谷川連峰、浅間山方面が良く見える。電波塔と目の高さが水平になった頃急登があり、頑張れば30分で山頂の肩に出る。関東平野が見える。谷川連峰、巻機山、丹後山、平ガ岳等を分水嶺とした利根川が足の下を蛇行する。渋川コースの大黒岩が厳しく屹立する対岸。渋川コースと比べるとなんとやさしかったことかと安堵するコースである。平らな稜線が200m位続き、最後の50mを一気に登った所が子持山山頂1296・7mである。車置場から40分の登りであった。一等三角点補塡を確認し、大きな石が3ケある上に登って征服者の気分を味わうとよい。

赤城山を東に見て、右側時計針方向に目を移すと、関東平野、秩父連峰（南側）八ケ岳、手前に榛名山、子持山の左後が浅間山2493m、低く下がって高くなった所が上信越高原国立公園の四阿山2333m。この後が菅平高原になる。四阿山と浅間山の中間奥に白く形の良い山が見える。地図で確認すると北アルプスの大天井岳2922mとなる（西側）草津白根山2150m、白砂山2140m、苗場山2145mと続き、下がって上がって又白くなった山が続く。北側になる猿ケ京の後が平標山1984m、仙ノ倉山2026m、万太郎山1954m、谷川岳となる。谷川岳の手前、水上から高速道路が沼田へ延びてきている。また山が切れたようになって右へ続く、朝日岳1945mである。小沢岳、丹後山方面と続く。武尊山2158mの左肩に平ケ岳の白い塊と台地が確認できる。武尊山と展望の出発地点赤城山の中間に、日光白根山2578mが見える。

帰りは山頂の肩の所まで戻り、右折すると今登ってきたコースだが、真直ぐ進みNTTの電波塔のコースを降りるとよい。遠回りになるが松葉を踏み締めての下山となる。所々凍っているので走るのは危険である。ゆっくりした坂道で、子供、老人、初心者のハイキングコースと言った感じがする。このコースがきついと思う人が居たら、1階から2階への階段が上がれないだろう。20分で電波塔に着き、15分車道を歩いて車置場に着く。

第8回日本登山医学シンポジウムの案内

第8回日本登山医学研究会
会長　田中壮佶

〝山と人と医学〟をテーマに、登山に関する医学的諸問題について、登山家を交え話し合いたいと思います。多数の御参加と演題発表をお待ちしております。

記

1. 会期　昭和63年6月11日(土)～12日(日)
2. 会場　群馬県　水上温泉　去来荘　☎0278(72)6311
3. 費用　参加費13,000円（会場費、宿泊費、懇親会費込み）、63年度年会費3,000円（会誌「登山医学」代）
4. 演題募集　演題名、所属、発表者名を4月10日(日)までに下記にお申し込み下さい。
5. 主催　日本登山医学研究会
6. 後援　群馬県、群馬県教育委員会、上毛新聞社、群馬県山岳連盟

◎〒375　群馬県藤岡市藤岡942-1　多野総合病院　脳神経外科内　第8回日本登山医学シンポジウム事務局　☎0274(22)3311（内線3340、3341）　☎0273(23)6713（夜間・自宅）

初の自然保護年鑑

このわが国最初の「自然保護年鑑」は、日笠山正治氏が国・地方公共団体・民間団体に働きかけ、百を超える機関と数百人の執筆協力を得て刊行したもの。

「巻頭地図」は、自然環境保全基礎調査で行った日本全土の植生自然度、房総半島の現存植生図・植生自然度・衛星写真などのカラー写真やミンミンゼミ、コイ、カッコウ、セイタカアワダチソウの二色刷り写真。

「総説」では、明治30年の森林法以来、環境庁設置までの自然保護行政の歩み、自然保護行政の充実、新たな自然保護行政の展開の解説。自然保護行政の充実では、昭和47年6月に「自然環境保全法」が制定され、自然環境が人間の健康で文化的な生活に欠かせないものであり、国・地方公共団体・事業者および国民が一体になって自然環境の保

全を行う責務があることが明らかにされた。49年6月には「自然保護憲章」が制定され、自然環境保全基礎調査は48年度から3回行われた。また、自然環境保全地域等の指定制度も創設された。さらに自然公園行政、鳥獣保護行政、温泉行政、国民公園行政などが推進されるようになった、などを紹介している。

「国の施策」の項は、①自然環境保全基礎調査（第1回から第3回までの骨子）、②自然の体系的保全、③文化財の保護、④野生生物の保護、⑤自然とのふれあいの増進、⑥国民参加による自然保護、⑦国際的な動き。

「地方公共団体の施策」については、①都道府県別施策の概要、②都道府県別自然保護関係部課一覧、③自然環境保全に関する条例一覧、④都道府県自然環境保全審議会委員名簿。

「民間団体の組織と活動」では、中央と地方の団体別、大学の自然保護研究会の活動を紹介している。

「参考資料」には、第2回自然環境保全基礎調査で行った①原生林もしくはそれに近い自然林、ブナ林、照葉樹林、ニホンザル、オオサンショウウオ、ハッチョウトンボなどの分布や国立公園、国定公園、海中公園配置図、国民休暇村一覧、ナイロビ宣言、諸外国の自然保護の状況など、有益な資料が数多くある。B5判、400頁、4,800円。

自然保護年鑑は、政府刊行物センターか日正社へ。

爼倉山スキーツアー案内

日時　昭和63年3月26日～27日

集合場所　新発田市滝谷、新発田市農村婦人の家、受付18時より。

装備　スキー用具一式（シール）、輪樏の登山も可。

服装　春山日帰りとし、雨具、水筒必携。

宿泊　寝具は各自持参。

会費　1000円

※26日懇親会用トン汁は用意しますが、食事は各自でご用意願います。

日程　26日、19時より懇親会、21時就寝。

27日、朝食後、7時出発、釜が沢林道分岐まで車。釜が沢林道より鳥越峠を越え琴沢から爼倉山頂上11時着、中食後12時往路下山、釜が沢林道分岐14時着。解散。

担当　下越山岳会

申込　新発田市中央町1の1の7

五十嵐篤雄方

☎0254(22)2928

冬山登山技術研修会案内

期日　昭和63年2月20日(土)～21日(日)

会場　青田南葉山（949m）

宿泊地　上越市下馬場多目的センター

※　寝袋、夕食、朝食、昼食は各自持参

装備　冬山装備（山スキーもやりたいと思います）

日程

・2月20日(土)

受付開始　18時

懇親会　19時～21時

・2月21日(日)

朝食　5時30分

出発　6時　↓　見晴し台9時（豪雪の場合はキャンプ場まで）

訓練後下山　↓　センター12時30分

昼食　13時30分

自然科学博物館（上越リージョンプラザ）13時40分～15時　解散

会費　2000円

申込み　2月13日(土)

・長岡市学校町1－12－23

室賀輝男方

新潟県山岳協会

☎0258－32－0428

・上越市南城町2－3－37

橋本正己方

高田ハイキングクラブ

☎0255－24－7215

担当　高田ハイキングクラブ

教習種目　大型・普通（第1種 第2種）大特
自二輪・身障者用各種自動車
中条自動車学校
北蒲原郡中条町大字高野字茨島
中条（0254）44－8071
社長　高野愛子

読書は万能の基
新潟市営所通1－301
学生書房
電話 025－222－9870番

冬山への警告

積雪期登山の心構えと遭難防止

冬は夏に較べると人間の活動能力が減退する。そのうえ冬山に登る場合は服装も重装になり背負う荷物も重く、それに輪樏を穿きラッセルも伴う場合が多い。このような事柄が肉体的負担を倍加することになるから、計画の段階でパーティーの能力を相当割引きして考え、それに日照時間が短いことも考慮に入れて日程を組む必要がある。

特に注意すべきは気象の変化で、越後の冬山は実に変化に富んでいる。気象上の問題にしても、登山者に影響するものは唯天候そのものの変化ではない。山容すら変えてしまう強風、降雪による変化は、短い経験や机上の知識では予測できない千変万化が高い稜線、深い谷等に常に起きている。

去年の冬、そのルートを難なく安全に通過したということで、同じ状態を予想して行動すると、とんでもない目に遭うことがある。又、前年困難を極めたルートが嘘みたいに楽々と通過できたということもある。

３年程前、飯豊の梅花皮沢下流で巨大な橅、姫小松が数本根こそぎ倒れており、通過するのに難渋したことがあった。表層雪崩になぎ倒されたのである。これはその橅等が大木に育つまで数十年、あるいは数百年間、一度も雪崩が起きなかったことになる。

今まで雪崩を見たことがないからといって、雪崩の安全地帯であると定めてしまうことは非常に危険なことである。

建築後７年を経て、その中を鉄壁と信じて安眠していた登山者もろとも無惨に潰壊された、剣沢小屋の悲惨な雪崩事故は有名である。

要は最悪の事態を想定して、なおかつあらゆる変化に対処し、少しの誤りもなく計画を遂行できる技倆と装備と体力とを兼備することが冬山登山の要素であると思う。

もう一度冬山の前に考えよう

1. 登山計画書は関係機関に提出したか。下車駅、登山口、山小屋へも届けることを忘れるな。
2. 越後の山の特徴をしっかり頭に入れよ。越後の吹雪の日が１週間も10日も続くことを知っているか。快適な冬山のラッセルは越後の山では通用しない。

3. 日程、装備、食糧は充分か。体調は。腰までのラッセル、吹雪の連続で計画通りゆかないことがある。
4. メンバーの中に冬山経験者が居るか。無雪期のベテランでも、冬山の経験者が居ないパーティーは遭難のもと。
5. 地元民や経験者の意見は素直に聞け。気力と若さだけでは冬山は登れない、他人の意見を受け入れ再検討する謙虚さが大切。

行　動　に　つ　い　て

1. 入山、下山、登山中止の連絡は早い方がよい。計画書を提出していても、現地に着いたら地元連絡所、宿舎、駅などに行動予定を告げて出発し、下山時も必ず報告する。
2. 予定の山岳、コースは余程の事情がない限り変更するな。予定のコースが無理な状況であれば、中止して引返せ、山は逃げない、又機会がある。
3. 早発ち早着きの原則を守れ。変更して遅発ちで快適な登山はない。冬日の日照時間は夏より4時間短かく、午後は天候の悪化が多いことを計算に入れよ。
4. リーダーの指示を守れ。リーダーシップ、メンバーシップを欠くとき、破滅がおそいかかることを覚悟せよ。
5. 安易な登頂より困難な退却に見事な行動をせよ。引き返す勇気ととどまる理性をもて。常に現在地を確認し、天候悪化のときは早目に見切りをつけよ。迷ったら元の地点まで戻れ、深入するな。確信もないのにみだりに動きまわるのは、疲労を得るだけだ。
6. 天気情報をしっかりつかみ、天候の変化を敏感に察知せよ。天気図を読み書きできなければ、冬山気象に太刀打ちはできない。

あ　と　が　き

冬山の遭難をなくするための参考にと以上のような要点を記しましたが、これを守っていれば遭難しないというものではありません。

遭難の70%は、未熟、無知、無謀、不注意によるものといわれています。これらの遭難は、組織（山岳会等）に入り先輩達の指導等によって防げる筈ですが、山の気象、特に吹雪、雪崩についてはベテランといえども、非常にむずかしい。地形、降雪量、雪質、気温の変化等を科学的に分析することによって、雪崩の原因、予知は机上では納得できるが、現実にはたゆまぬ山の経験の中から生れる、動物的感覚に頼らざるを得ない。

不安のない、危険のない冬山を楽しむために必要な知識を学ぶことは、冬山を志す人達の義務である。